



公益社団法人
日本アメリカンフットボール協会

第2回 アメリカンフットボール大学世界選手権大会

報告書



第1回 アメリカンフットボール大学世界選手権大会 (報告)

国際大学スポーツ連盟 (FISU:Fédération Internationale du Sport Universitaire) が主催する「第2回大学世界選手権大会」は、2016年6月1日～6月11日、メキシコ合衆国モンテレー市で開催されました。

日本、アメリカ、メキシコ、グアテマラ、中国、の5カ国が参加して行われた今大会、最終日に全勝同士で地元メキシコとアメリカ対戦した。メキシコが35対7とアメリカを圧倒、2014年大会に続き大会2連覇を飾った。

準優勝にはアメリカ(3勝1敗)、3位日本(2勝2敗)、4位中国(1勝3敗)、5位グアテマラ(0勝4敗)となった。

■試合結果

◇ 6月2日(木)	Tecnológico Stadium						
	[14:00]	日本	72	-	0	グアテマラ	
	[18:00]	メキシコ	74	-	0	中国	
◇ 6月4日(土)	Club Águilas						
	[18:00]	アメリカ	55	-	0	中国	
◇ 6月5日(日)	Tecnológico Stadium						
	[18:00]	メキシコ	63	-	0	グアテマラ	
◇ 6月6日(月)	Tecnológico Stadium						
	[18:00]	日本	14	-	22	アメリカ	
◇ 6月7日(火)	Tecnológico Stadium						
	[14:00]	中国	3	-	0	グアテマラ	
◇ 6月8日(水)	Tecnológico Stadium						
	[18:00]	メキシコ	36	-	3	日本	
◇ 6月9日(木)	Tecnológico Stadium						
	[18:00]	アメリカ	61	-	0	グアテマラ	
◇ 6月10日(金)	Tecnológico Stadium						
	[18:00]	日本	72	-	0	中国	
◇ 6月11日(土)	Tecnológico Stadium						
	[18:00]	メキシコ	35	-	7	アメリカ	

■星取表

						勝敗	順位
						4勝0敗	優勝
		○	○	○	○	4勝0敗	優勝
メキシコ		36-3	74-0	35-7	63-0		
	●		○	●	○	2勝2敗	3位
日本	3-36		72-0	14-22	72-0		
	●	●		●	○	1勝3敗	4位
中国	0-74	0-72		0-55	3-0		
	●	○	○		○	3勝1敗	準優勝
アメリカ	7-35	22-14	55-0		61-0		
	●	●	●	●		0勝4敗	5位
グアテマラ	0-63	0-72	0-3	0-61			

【大学日本代表チームの試合結果】

第1試合（6月2日）

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	Total
日本代表	34	14	7	14	72
グアテマラ代表	0	0	0	0	0

第2試合（6月6日）

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	Total
日本代表	0	7	0	7	14
アメリカ代表	7	6	0	9	22

第3試合（6月8日）

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	Total
日本代表	0	3	0	0	3
メキシコ代表	14	0	7	15	36

第4試合（6月10日）

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	Total
日本代表	35	16	13	8	72
中国代表	0	0	0	0	0

カレッジ日本代表 鳥内秀晃監督（関西学院大学アメリカンフットボール部監督）

【大会を振り返って】

日程が決まらなかつたり、アメリカ代表もどういうメンバーが来るか分からず、情報がなくて厳しかったのは確か。そんな状況でもコーチ陣は作戦を練ってよくやってくれた。アメリカ代表、メキシコ代表と中1日でやるのは正直しんどかった。アメリカとは120%でやったので、（メキシコ戦までに）体力を回復するのが厳しかった。それでも、選手たちは持っている力を出し切ってくれた。スペシャルプレイを含めてフォースダウントでは自分がコールしていたけど、そこでの成功率が良くなく、準備が足らなかつたとは思う。そのあたりは、今後の課題にします。

カレッジ日本代表 主将 QB 政元悠紀（早稲田大学卒）

【大会を振り返って】

フィジカルとスピードで差を感じた大会でしたけど、もう少し点数が取れたり、ディフェンスも止められたりしたのではないかと思いました。（アメリカとメキシコに勝つのは）今後、絶対無理ということは感じませんでした。でも、自分たちのミスが響いている場面があったので、それはもったいなかつたと思います。スピードやフィジカルの大切さを伝えて、日本のアメリカンフットボール界を向上させていきたいです。

【キャプテンとしてチームを率いて】

学年も幅が広く、個性的なメンバーが多くすごく楽しかったです。最初はまとめるのが大変でしたけど、みんなアメリカンフットボールが好きなので、試合になれば一つになりました。

カレッジ日本代表 K/P 大塚健一（京都大学）

【今大会を振り返って】

最初は天然芝でびっくりして、地面がボコボコの中で蹴らないといけないと思いましたけど、それが海外では当たり前。今後も代表に選ばれたいし、国際大会で勝っていくにはメンタルや技術を磨く必要があると思いました。そういう部分が自分には足りないことを痛感した遠征だったので、それが改めて分かっただけでも日本に帰ってもっと頑張れるいいきっかけになりました。



GAME REPORT

【第1試合】

-日本代表、グアテマラを圧倒、開幕戦を大勝で飾る-

6月2日、第2回FISUアメリカンフットボール大学世界選手権が開幕し、日本とグアテマラが開幕戦で顔を合わせた。日本は攻守でグアテマラを圧倒、72対0でグアテマラを下し、初戦を白星で飾った。

この試合の最優秀選手には日本のWR高津佐隼矢（法政大）が、優秀選手にはグアテマラのWR Eric Mezcas選ばれた。

現地時間 6月2日（木） 14時00分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	37	14	7	14	72
グアテマラ代表	0	0	0	0	0

ゲームサーマリー

日本代表は1Q試合開始のシリーズでRB古川（関西大）のTDランで先制すると、続くグアテマラの攻撃でセーフティーを奪取。その後もWR白根（京都大）、WR高津佐、WR西村（日本大卒）、が次々とTDを上げる。オンサイドキックも成功させ1Qで5TDを上げる猛攻。更にLB浦野（立命館大）はパスをインターセプトしTD。51対0という大差で前半を終えた。

後半に入っても日本は攻撃の手を緩めず、WR近江（立命館大）、WR成田（立命館大）、RB古川らがTDを上げる。守備も相手攻撃に全くゲインを許さず、全攻撃3アンドアウトの展開。全く不安を感じさせないまま試合は終了。72対0というスコアで大勝した。

日本の次戦は6月6日、優勝候補のアメリカ戦となる。

グアテマラ戦後の主な日本代表コーチ、選手のコメント

■カレッジ日本代表 烏内秀晃監督（関西学院大学監督）

初戦で少し緊張していた。力の差はあっても1プレー、1ブレイキチッとやりきることを課題にした。個々には出来ていたと思う。これからが厳しい試合なのでここからが問題。

（メキシコチームの印象を聞かれ）

メキシコは素晴らしいチーム、2年前に負っているので今度負ける訳にはいかない。今回はアメリカも出場しているのでそこにも勝ちたい。20時間以上かけてメキシコに来たのは優勝トロフィーを持って帰るため。

■WR高津佐隼矢（法政大学）

活躍出来、この様な賞をもらえたことが素直に嬉しい。大切なのはチームが勝つこと、ゴールドメダルを目指している。

主なスタッフ（主催者発表）

得点選手一覧		獲得点数	得点回数
選手名			
JPN	高津佐 隼矢 (法政大)	13	3
JPN	古川 真宙 (関西大)	12	2
JPN	大塚 健一 (京都大)	7	7
JPN	浦野 雄大 (立命館大)	6	1
JPN	西村 有斗 (日本大卒)	6	1
JPN	高口 和起 (日本大卒)	6	1
JPN	近江 克仁 (立命館大)	6	1
JPN	成田 光希 (立命館大)	6	1
JPN	白根 混 (京都大)	6	1
JPN	染矢 優生 (慶應義塾大)	3	1
JPN	佐藤 将貴 (中央大)	1	1

日本	チーム成績	グアテマラ
14-248	オフェンス回数-総獲得ヤード数	25- -45
10-171	ラン回数-ラン獲得ヤード数	17- -48
4-77	パス回数-パス獲得ヤード数	8-3
3 (3-0-0)	ファーストダウン数 (ラン-パス-反則)	0 (0-0-0)
2-25	ペナルティ回数／喪失ヤード数	2-10
0 (0-0)	攻撃権喪失数 (ファンブル-インターセプト)	3 (1-2)

日本 主な個人成績					
選手名	パス試投-成功	獲得ヤード	TD	インターチェプト	被サック
石内 卓也 (関西大卒)	2-2	66	2	0	0
西山 雄斗 (立命館大)	2-2	11	1	0	0
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	
古川 真宙 (関西大)	4	43	2	10.8	
高津佐 隼矢 (法政大)	2	37	2	18.5	
西村 有斗 (日本大卒)	1	34	1	34.0	
高口 和起 (日本大卒)	1	22	1	22.0	
近江 克仁 (立命館大)	1	18	1	18.0	
成田 光希 (立命館大)	1	17	1	17.0	

選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	
高津佐 隼矢 (法政大)	2	37	2	18.5	
白根 淑 (京都大)	1	40	1	40	
成田 光希 (立命館大)	1	3	1	3.0	
選手名	タックル数	サック数	インター/セプト	INT リターンyd	
仲里 広章 (立命館大卒)	4	0	0	0	
佐藤 将貴 (中央大)	2	0	0	0	
#59	2	0	0	0	
遠藤 鳩 (神戸大)	2	0	0	0	
金城 慎基 (法政大卒)	2	0	0	0	
木村 俊基 (立命館大)	2	0	0	0	
染矢 優生 (慶應義塾大)	1	1	0	0	
奥本 魁 (日本大)	1	0	1	5	
森岡 良介 (関西大)	1	0	0	0	
浦野 雄大 (立命館大)	0	0	1	20	



2TDを挙げ日本代表MVPに選ばれた#82WR 高津佐隼也(法政大学)



先制TDをあげた#22RB 古川真宙(関西大) リーディングタックラー#93DL 仲里広章(立命館大卒)



GAME REPORT

【第2試合】

—アメリカに惜敗 全勝メキシコとの対戦へ—

現地時間 6月6日(月)※日本時間 7日(月)メキシコ合衆国モンテレイ市で開催されている、大学世界選手権 2016 が行われ、カレッジ日本代表がアメリカ代表と対戦し、14 対 22 のスコアで敗れました。

試合終了間際、逆転のタッチダウを上げて勝利を掴みかけた日本代表でしたが、残り時間で再逆転を許すという厳しい結果になりました。日本代表は現地時間 6月8日(水)アメリカと並びここまで全勝のメキシコと対戦いたします。

この試合のゲーム MVP には日本の RB 西村七斗(立命館大)が選ばれました。

現地時間 6月6日(月) 18時00分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	0	7	0	7	14
アメリカ代表	7	6	0	9	22

ゲームサーマリー

試合は日本のキックオフでスタート。好リターンで敵陣 47yからの攻撃となったアメリカは、QB Dan Casey(Duke Univ)のランを中心に小気味よくボールを進め、最後は RB Kennedy Hill(Taylor Univ)が 14yを走りきり TD、あっさりと先制点を奪った。

対する日本代表は自陣 20yから。スタート QB は政本(早稲田大卒)、RB 西村七斗のランプレーを中心に組み立て、敵陣までボールを進めるもののパスが決まらず攻撃は続かない。しかし好パントで敵陣 5yに相手を押し込んだ。

続くアメリカの攻撃を3回で終わらせたものの、自陣 49 ヤードからの日本の攻撃も 3 回で終了。しかしながらパンタ一塹(京都大)の好パントで、相手攻撃を敵陣 2 ヤードまで押し込めた。

ここでアメリカは 3 回連続パス不成功でパント。日本は敵陣 35yという好ポジションで攻撃権を得た。RB 李 卓(慶應義塾大)のランでダウントーンを更新すると、李のランプレーを連続しコール前へ。最後は QB 政本が 1yを押し込み TD をあげる。第 1Q は 7 対 7 という展開になった。

自陣 43yから始めたアメリカの攻撃、WR Christopher Grice Jr(New Mexico Highlands Univ)のパスプレーと、QB Casey のスクランブルランでボールを進め敵陣 33yで FG(フィールドゴール)トライ。

キッカー(K) Matthew Davis(Univ of North Carolina at Pembroke)のキックは不成功に終わった。

自陣 33yからの日本の攻撃、WR 青根(関西大)のパスキャッチでダウントーンを更新すると、ランにパスに RB 李を起用、敵陣 38yで第4ダウントーン 1y、ここでパンターが前にボールをトスするトリックプレーを見せたがこのパスは不成功になった。

次のアメリカの攻撃。自陣 49yからの第 3 ダウントーンのパスプレーを DB 秋山(立命館大学)がインターセプト、日本が攻撃権を奪い返す。しかしその後の日本の攻撃はリズムが悪い。パス失敗、QB サックとジリジリ後退する。迎えた第4ダウントーン 15y、パンターがボールをファンブルし自陣 24yで攻撃権を渡してしまう。しかし、ここで日本の守備も踏ん張り、3 回のランプレーを止め、第 4 ダウントーン 4y。ここでアメリカはギャンブル、パスを決め勝ち越しの TD を上げた [WR(#80)]。しかし PAT のキックは失敗し、7 対 13 とアメリカリード。

この後それぞれの攻撃はいずれも得点には結びつかず、7 対 13 アメリカリードで前半を終えた。

後半は自陣 21yから日本の攻撃でスタート。RB 西村、RB 李、の両エースのランプレーで前進を重ねる。もパス失敗と反則で失速。第 3 ダウン 19yをパントで切り抜ける。

続くアメリカの攻撃は自陣 31y、QB Casey のスクランブルでダウンの更新を揺るものの、DL 仲里(立命館大卒)のロッカーハウス、QB への激しいパスチャージで第 4 ダウン 30yと押し込みパントに追い込む。

続く日本の攻撃は自陣 35y。WR 西村有斗(日本大卒)のパスでダウンを更新するものの敵陣 39 ヤードで第 4 ダウン 3y。ギャンブルのパスは失敗に終わった。

続くアメリカの攻撃は自陣 39yから。攻撃の途中で 3Q が終了し 4Q へ入る。3Q を終了し、7 対 13 とアメリカがリード。

このシリーズ、QB Casey のスニークプレーでダウンを更新し、敵陣 33yでのランプレー RB Grice Jr がボールをファンブル。これを DB 秋山(立命館大)がリカバーし攻撃権を奪い取る。しかしその後の日本の攻撃は 3 回で終了、パントとなった。

続くアメリカの攻撃は自陣 37yから、ランとパスを織り交ぜ小刻みにボールを進めるが、QB Casey のランが止まらない。ボールを敵陣 15y迄進め、第 4 ダウン 6y。ここでアメリカは FG を選択、しかしキックはポストにあたり不成功となった。得点は 7 対 13 のまま。

続く日本の攻撃は自陣 20y、RB 李 順のランプレーの連続でダウンを更新、WR 猪熊(立命館大)のキャッチ、RB 西村のキャリーでダウンの更新を続ける。

ここで残り時間は 3 分、敵陣 45yからの第 1 ダウン。RB 西村の連続キャリーでダウン更新、更に RB 李 順のロングゲインで一気に敵陣 16yまでボールを進めた。そして、RB 李のラン、パス不成功の後、第 3 ダウン 7y、RB 西村がエンドゾーンまで一気に 13yを走りきり TD をあげた。PAT も決まり、14 対 13 と日本が逆点に成功した。残り時間は約 1 分。しかし試合は未だ終わってはいなかった。

続くキックオフ、アメリカは敵陣 49yまでキックオフを返す。そして最初のプレーで WR(#80)へロングパスを決め、一気に敵陣 15yまでボールを進めると、ランプレーを 2 つ挟み、残り 5 秒でタイムアウト、ボールは敵陣 6y。キッカー(K) Davis がこれを決め 14 対 16 と日本を逆転した、残りは 2 秒だった。

この後のキックオフリターン。日本はリターナーがバックワードパスを試みるも、これをアメリカがインターセプトそのまま TD、最終スコアはスコアは 14-22 となった。

アメリカ戦後の主な日本代表コーチ、選手のコメント

■カレッジ日本代表 烏内秀晃監督(関西学院大学監督)

◇試合後の感想

勝てるチャンスもあったので、非常に残念。最後に時間が 1 分も残りすぎた。タイムアウトを使いながら時間をなくしていくかかったけど、最後の(タッチダウン)ランが一気に通ってしまった。最後のキックは少し短くて捕らせてはいけない選手に捕られてしまった。色々と策があったけど、全部失敗したのが痛かった。

◇アメリカの印象について

例え出身がディビジョン 2 のメンバーであっても、スキルポジションに対してのタックルは厳しい。(キックによる) 3 点では厳しいので、点を取るゲームプランを立てていたけど、勝負どころでやられてしまった。

◇アメリカに通用する部分

攻守のラインは十分にできている。オフェンスはランプレーが真ん中から出ていたからいけると思った。みんなよくやっている。守備は最高の出来だった。オフェンスもランが出たら次にパスを投げたくなるけど、我慢してよくやっていた。

◇メキシコ戦への意気込み

メキシコは(アメリカより)もっと組織化されているのでしんどい戦いになると思う。まだネタが残っ

ているので、あらゆることをやりながら勝ちにいく

■RB 西村七斗（立命館大学3年）

◇試合後の感想

最後のタッチダウンで勝てたと思い、その気の緩みが負けにつながったと思います。アメリカ代表は、U-19の時と同じでスピードがあって強かったです。（自分が）練習して体を大きくしてきたので、今年は少しは大丈夫かなと思いましたけど、けっこうきつかったです。

◇ゲーム MVP の感想

素直に嬉しいです。でも試合に勝てなかったのが悔しいです。

◇メキシコ戦への意気込み

メキシコ戦でもランを出して、絶対に勝ちたいと思います。

■RB 李卓（慶應義塾大4年）

◇試合後の感想

試合前からチームでも勝てると思っていて、絶対に勝とうという風にまとまっていました。純粋に結果的に負けたのはすごく悔しいです。個人的にもチーム的にももったいないシリーズがたくさんあったので、勝てる試合を落としたというのがみんなの感想です。OLが押せていてランは通るとチームで分かっていたので、少しもったいない気はします。取れるシリーズを最初から取っておかないと、このような結果になると思いました。（昨年の世界選手権の）シニア代表の時から自分も成長できたので、自信を持って挑めました。

◇メキシコ戦への意気込み

ここには負けるために来たわけではないので、メキシコには絶対勝ちます。

主なスタッフ(主催者発表)

得点選手一覧			
選手名		獲得点数	得点回数
USA	Donovan Morris	6	1
USA	Kennedy Hill	6	1
USA	#80	6	1
JPN	西村 七斗 (日本大卒)	6	1
JPN	政本 悠紀 (早稲田大卒)	6	1
USA	Matthew Davis	4	2
JPN	大塚 健一 (京都大)	2	2

日本	チーム成績	アメリカ
60-226	オフェンス回数-総獲得ヤード数	51-275
38-167	ラン回数-ラン獲得ヤード数	32-166
22-59	パス回数-パス獲得ヤード数	19-109
14 (10-3-1)	ファーストダウン数 (ラン-パス-反則)	11 (8-3-0)
2-14	ペナルティ回数/喪失ヤード数	6-55
1 (1-0)	攻撃権喪失数 (ファンブル-インターセプト)	2 (1-1)

日本 主な個人成績					
選手名	パス試投-成功	獲得ヤード	TD	インターチェプト	被サック
政本 悠紀 (早稲田大卒)	14-7	48	0	0	0
石内 卓也 (関西大卒)	6-1	11	0	0	1
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	
西村 七斗 (日本大卒)	17	95	1	5.6	
李 卓 (慶應義塾大)	12	84	0	7.0	
高津佐 隼矢 (法政大)	1	8	0	8.0	
西村 有斗 (日本大卒)	1	6	0	6.0	
猪熊 星也 (立命館大)	1	3	0	3.0	
政本 悠紀 (早稲田大卒)	3	2	0	0.7	
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	
高津佐 隼矢 (法政大)	2	16	0	8.0	
西村 有斗 (日本大卒)	2	13	0	6.5	
青根 智広 (関西大)	1	10	0	10.0	
李 卓 (慶應義塾大)	1	8	0	8.0	
西村 七斗 (日本大卒)	1	6	1	6.0	
白根 混 (京都大)	1	6	0	6.0	
選手名	タックル数	サック数	インターチェプト	INTリターンyd	
大貫 曜 (立命館大卒)	6	0	0	0	
仲里 広章 (立命館大卒)	5	0	0	0	
秋山 雅洋 (立命館大)	4	0	0	0	
コグラン ケビン (早大卒)	4	0	0	0	
浦野 雄大 (立命館大)	3	0	0	0	
岩本 卓也 (日本大卒)	3	0	0	0	
木村 仁哉 (立命館大)	3	0	0	0	
佐藤 将貴 (中央大)	3	0	0	0	
成田 光希 (立命館大)	2	0	0	0	
松原 健太朗 (立命館大)	2	0	0	0	
大野 莞爾 (立命館大)	1	0	0	0	
中川 葵一 (立命館大)	1	0	0	0	
木村 俊基 (立命館大)	1	0	1	24	
#39	1	0	0	0	



この日 95y のキャリー、逆転 TD を挙げ日本代表 MVP に選ばれた#20 西村七斗（立命館大学）



#10QB 政本悠紀（早稲田大学卒）のパスプレー

#29RB 李 隼（慶應義塾大）のキャリーは 84y



#30DB 木村俊基（立命館大）のインターチェプト

最多タックル#35 大貫 曜（立命館大卒）





GAME REPORT

【第3試合】

—カレッジ日本代表がメキシコ代表に3対36で敗戦—

現地時間6月8日(水)※日本時間9日、メキシコ合衆国モンテレイ市のモンテレイ工科大学で開催されている『第2回アメリカンフットボール大学世界選手権大会』が行われ、カレッジ日本代表がメキシコ代表と対戦し、3対36のスコアで敗れました。これで日本代表は1勝2敗。今大会の最終戦となる次戦は、6月10日に中国代表と顔を合わせます。

なお、今大会の主催FISUが選出したこの試合のカレッジ日本代表ゲームMVPには、DL仲里 広章(立命館大学卒)が受賞しました。

現地時間6月8日(水) 18時00分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	0	3	0	0	3
メキシコ代表	14	0	7	15	36

ゲームサマリー

日本代表のキックオフで始まったこの日の試合。日本代表は、タッチバックして始まったメキシコの攻撃で、いきなり75ヤードのランプレイを許しゴール前5ヤードまで進まれると、その次のランプレイでタッチダウンを許してしまう。わずか2プレイで7点のビハインドを負った日本代表は、その後の攻撃でファーストダウンを更新できなかった。

日本代表は、メキシコ代表の力強いラン攻撃に手を焼き、その後も敵陣43ヤードから始まった相手の攻撃で、再び50ヤードを超えるタッチダウンランを奪われ、第1Qで14点のビハインドを負った。

第2Q、最初のプレイでQB西山 雄斗(立命館大学)からWR成田 光希(立命館大学)へパスが通り、ようやくこの試合初めてのファーストダウン更新。その後も、QB西山からWR西村 有斗(日本大学卒)へのパスが成功し敵陣に侵入する。さらにQB西山からWR西村へのパス、RB西村 七斗のランでゲインすると、フォースダウンギャンブルではRB李 順(慶應義塾大学)のランでファーストダウン更新。敵陣25ヤードまでボールを進める。なおも、QB西山からRB西村への6ヤードパスが決まり前進するがタッチダウンを奪えず。結局、K大塚 健一(京都大学)のフィールドゴールで3点を返し、日本代表は3対14とした。

その後の相手攻撃をパントに抑えた日本代表は、自陣23ヤードからの攻撃で、QB西山からTE青根智広(関西大学)へ19ヤードパスがヒットし、ファーストダウン更新。さらにQB西山からWR猪熊 星也(立命館大学)へ24ヤードのパスが通り敵陣34ヤードまで進むと、QB西山からTE佐々木 雄矢(京都大学)のパスで23ヤードまで前進した。しかしこのドライブは得点に結び付けられず、前半が終了した。

第3Q、自陣30ヤードから始まった日本代表の後半最初のドライブは、ファーストダウンを1回更新するも、その後が続かずパントに終わった。その後のメキシコの攻撃では、70ヤード超のロングパスを通されタッチダウンを献上。3対21と引き離されてしまった。

続く自陣16ヤードから始まった日本代表の攻撃は、スリーアンドアウト。その後のメキシコの攻撃でファーストダウンを更新させなかった日本代表は、自陣20ヤードからの攻撃でパントに終わるが、メキシコ代表がこれをファンブルして日本代表がリカバーした。

自陣37ヤードで攻撃権を得た日本代表は、この絶好のチャンスにQB西山からWR高津佐 隼矢（法政大学）へのパスが通り敵陣28ヤードへ侵入。しかし、フォースダウンでパントフォーメーションからのトリックプレイが失敗に終わり、攻撃権を喪失。すると、69ヤードランのビッグゲインで自陣11ヤードまでメキシコ代表に攻め込まれる。最後はゴール前1ヤードでエンドゾーンに飛び込まれ、この日4つ目のタッチダウンを許した。

第4Q、点差を縮めたい日本代表は、WR西村の好リターンで敵陣38ヤードから攻撃スタート。しかし、ここでもパントに抑えられ得点できなかった。P大塚の好パントで敵陣3ヤードから始まったその後のメキシコの攻撃では、ランによる2つのビッグゲインを許し、タッチダウンを奪われると、2点コンバージョンも決められ3対36とされた。

自陣45ヤードから始まった日本代表の攻撃は、QB西山の2つのパス成功で敵陣まで侵入。しかし、QB西山がエンドゾーン付近に投じたロングパスがインターセプトされた。それでも、日本代表は守備陣が踏ん張り相手の攻撃をパントに抑え、自陣12ヤードから攻撃開始。その攻撃でもスリーアンドアウトに抑えられ万事休した。

メキシコ戦後の主な日本代表コーチ、選手のコメント

■カレッジ日本代表 烏内秀晃監督(関西学院大学監督)

◇メキシコ戦を振り返って

もう少し勝負したかった。体力的に中1日ということで辛かった。相手のランナーも良かったけど、タックルミスは一步の出足が遅かった。（メキシコとは）フィジカルの差が一番大きかった。（今後世界と戦うためには）体力を強化する必要がある。（中国戦に向けて）全力でやるだけ。

■DL 仲里 広章（立命館大学卒）

◇メキシコ戦を振り返って

アメリカ戦から中1日で厳しい部分もありましたが、やはりタックルというフィジカルの差が大きかったです。ディフェンスとしては（相手攻撃を）しっかり止めて、もっとオフェンスに楽させたかったです。（メキシコのラン攻撃は）システム的には止まっているようになっていますけど、それでもタックルを外してセカンドエフォートでやられたところがダメでした。アメリカと比べると、メキシコのほうが強かった気がします。

◇今後世界と戦うためには

フィジカルの差を埋めることです。どんな体格の外国人がきても対抗できるような体を作ることが重要だと思います。タックルする際も相手の芯を捉えて、常に外国人を止めるイメージを持ってプレイすることが大事だと思います。

◇メキシコ戦で日本が良かったこと

最後までみんな諦めなかつたことです。そういった気持ちは後々、接戦になった時一番重要なカギにな

ると思いますので、日本人らしく最後まで諦めないことを意識して戦っていました。

◇中国戦に向けて

まだ大会が終わったわけではないので、最後まで手を抜かず全力でプレイします。

■LB コグラン ケビン（早稲田大学卒）

◇メキシコ戦を振り返って

（メキシコの）バック陣は速くて強くて一人では止められず、指の先がかかつただけでは止まらなくてフィジカルの差がありました。

◇第1回大会のメキシコ代表と比較して

第1回大会ではワンタックルで倒せたけど、今回は全然レベルが違っていました。

◇今後世界と戦うためには

自分が経験したことは凄く貴重なことなので、口だけでなく行動でも示していきたいです。まだまだ意識が低いので、国内だけでなく世界も見るようになっていきたいです。

◇中国戦に向けて

1位になることはできないと思いますけど、まだまだ日本代表としてプレイできることは嬉しいことなので、絶対勝ってみせます。

主なスタッフ(主催者発表)

得点選手一覧			
	選手名	獲得点数	得点回数
MEX	Fernand Mejia	18	3
MEX	Max Villarreal	6	1
MEX	Rodrigo Arias	6	5
MEX	Pedro Magallanes	6	1
JPN	大塚 健一（京都大）	3	1

日本	チーム成績	メキシコ
58-184	オフェンス回数-総獲得ヤード数	44-529
23-17	ラン回数-ラン獲得ヤード数	34-422
35-167	パス回数-パス獲得ヤード数	10-107
8(1-7-0)	ファーストダウン数（ラン-パス-反則）	13(9-3-1)
6-60	ペナルティ回数／喪失ヤード数	3-35
1(0-1)	攻撃権喪失数（ファンブル-インターセプト）	1(1-0)

日本 主な個人成績					
選手名	パス試投-成功	獲得ヤード	TD	インターチェプト	被サック
西山 雄斗（立命館大）	26-11	115	0	1	2
高橋 遼平（日本大）	3-3	35	0	0	0
石内 卓也（関西大卒）	6-2	17	0	0	0

選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	
西村 七斗 (日本大卒)	7	13	0	1.9	
李 卓 (慶應義塾大)	5	8	0	1.6	
高津佐 隼矢 (法政大)	1	5	0	5.0	
西村 有斗 (日本大卒)	2	4	0	2.0	
高口 和起 (日本大卒)	1	2	0	2.0	
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	
高津佐 隼矢 (法政大)	3	32	0	10.7	
佐々木 雄矢 (京都大)	3	27	0	9.0	
西村 有斗 (日本大卒)	3	24	0	8.0	
猪熊 星也 (立命館大)	1	23	0	23.0	
青根 智広 (関西大)	1	20	0	20.0	
成田 光希 (立命館大)	1	13	0	13.0	
鈴木 隆貴 (早稲田大)	1	10	0	10.0	
白根 混 (京都大)	1	8	0	8.0	
西村 七斗 (日本大卒)	1	6	0	6.0	
李 卓 (慶應義塾大)	1	4	0	4.0	
選手名	タックル数	サック数	インターベプト	INT リターンyd	
神津 大地 (ベイカ-大)	7	0	0	0	
岩本 卓也 (日本大卒)	5	0	0	0	
仲里 広章 (立命館大卒)	5	0	0	0	
長谷川仁志 (立命館大卒)	4	0	0	0	
浦野 雄大 (立命館大)	2	0	0	0	
大野 莞爾 (立命館大)	2	0	0	0	
秋山 雅洋 (立命館大)	2	0	0	0	
佐野 剛 (法政大卒)	1	0	0	0	
米田 亮太 (日本大)	1	0	0	0	
コグラン ケビン (早大卒)	1	0	0	0	
李 卓 (慶應義塾大)	1	0	0	0	
松原 健太朗 (立命館大)	1	0	0	0	
木村 仁哉 (立命館大)	1	0	0	0	
#44	1	0	0	0	



この日 5 タックル、日本代表 MVP に選ばれた#93 仲里広章（立命館大学）



#11QB 西山雄斗（立命館大学）のパスプレー

唯一の得点 #1K 大塚健一（京都大）のFG



最多タックル#36DB 神津大地（ベイカーハーツ）

#89WR 佐々木雄矢（京都大）は 3 キャッチ





GAME REPORT

【第4試合】

一カレッジ日本代表が中国代表に 72 対 0 で完勝 3 位が確定一

現地時間 6 月 10 日（金）※日本時間 11 日、メキシコ合衆国モンテレイ市のモンテレイ工科大学で開催されている『第 2 回アメリカンフットボール大学世界選手権大会』が行われ、カレッジ日本代表が中国代表と対戦し、72 対 0 のスコアで勝利しました。これで日本代表は 2 勝 2 敗で全日程を終了し、今大会の 3 位が確定しました。

なお、今大会の主催 FISU が選出したこの試合のカレッジ日本代表ゲーム MVP には、K/P 大塚 健一（京都大学）が受賞しました。

現地時間 6 月 10 日(金) 18 時 00 分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	35	16	13	8	72
中国代表	0	0	0	0	0

ゲームサマリー

日本代表のレシーブで試合がスタート。日本代表は自陣 44 ヤードから始まった攻撃で、RB 古川 真宙（関西大学）の 3 連続ランで敵陣 17 ヤードまで侵入すると、QB 西山 雄斗（立命館大学）から RB 山崎 龍哉（早稲田大学）へ先制のタッチダウンがヒット。キックも決めて 7 対 0 とリードする。

さらに日本代表は、中国の攻撃をスリーアンドアウトで止めた後、敵陣 38 ヤードから始まった攻撃シリーズではランプレイを展開してゴール前 10 ヤードまで前進。最後は、RB 高口 和起（日本大学（卒））がエンドゾーンへ走り込み、14 対 0 と差を広げる。続く中国の攻撃をパントに抑えた日本代表は、このパントを WR 猪熊 星也（立命館大学）がリターンタッチダウン。なおも、ファンブルリカバーで攻撃権を奪取すると、敵陣 30 ヤードからの攻撃で QB 高橋 遼平（日本大学）が右サイドを走る WR 西村有斗（日本大学（卒））へタッチダウンパスを通して 28 対 0 とした。

第 1Q 残り 2 分 8 秒には WR 西村がパントリターンタッチダウンを決めて、35 点差に広げた日本代表。第 2Q に入りても、DL 山崎 奨悟（日本大学）がファンブルリカバータッチダウンとセイフティを奪い加点。さらに、RB 古川が 6 ヤードタッチダウンを決めて、日本代表は 51 対 0 で前半を折り返した。

日本代表は第 3Q に古川のこの日自身 2 つ目となるタッチダウンラン、LB 遠藤 颯（神戸大学）のインターセプトリターンタッチダウンで 14 点を追加。第 4Q にも QB 高橋から猪熊への 11 ヤードタッチダウンパスが決まり、中国相手に完勝した。

中国戦後の主な日本代表コーチ、選手のコメント

■カレッジ日本代表 鳥内秀晃監督(関西学院大学監督)

カレッジ日本代表 鳥内 秀晃監督 (関西学院大学アメリカンフットボール部監督)

◇中国戦を振り返って

ファンダメンタルのレベルが違いすぎるので危ない状況だったけど、我々は自分たちのやってきたことをやるだけだった。小手先ではなく、反則もなしてやろうと言っていて、(選手たちは)ちゃんとやってくれた。

■ K/P 大塚 健一 (京都大学)

◇ゲーム MVP 受賞の感想

PAT とキックオフしか蹴っておらず、オフェンス、ディフェンスの皆が得点して守ってくれたため自分は得点が取れました。本当にチームのおかげで受賞できたと思います。

主なスタッフ(主催者発表)

得点選手一覧		獲得点数	得点回数
	選手名		
JPN	古川 真宙 (関西大)	12	2
JPN	猪熊 星也 (立命館大)	12	2
JPN	西村 有斗 (日本大卒)	12	2
JPN	大塚 健一 (京都大)	10	10
JPN	山崎 燿悟 (日本大)	6	1
JPN	遠藤 鳩 (神戸大)	6	1
JPN	高口 和起 (日本大卒)	6	1
JPN	山崎 龍哉 (早稲田大)	6	1
JPN	金城 慎基 (法政大卒)	2	1

日本	チーム成績	中国
21-259	オフェンス回数-総獲得ヤード数	25- -15
12-146	ラン回数-ラン獲得ヤード数	11- -31
9-113	パス回数-パス獲得ヤード数	14-16
6(4-2-0)	ファーストダウン数 (ラン-パス-反則)	1(0-1-0)
3-35	ペナルティ回数／喪失ヤード数	0-0
0(0-0)	攻撃権喪失数 (ファンブル-インターセプト)	3(2-1)

日本 主な個人成績					
選手名	パス試投-成功	獲得ヤード	TD	インターチェプト	被サック
西山 雄斗 (立命館大)	6-5	64	2	0	0
石内 卓也 (関西大卒)	1-1	30	1	0	0
高橋 遼平 (日本大)	2-2	19	1	0	0
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	
古川 真宙 (関西大)	7	106	2	15.1	
高口 和起 (日本大卒)	3	19	1	6.3	
猪熊 星也 (立命館大)	1	19	1	19.0	
高橋 遼平 (日本大)	1	2	0	2.0	
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	
西村 有斗 (日本大卒)	1	30	2	30.0	
中村 聰吾 (関西大)	1	20	0	20.0	
山崎 龍哉 (早稲田大)	2	19	1	9.5	
猪熊 星也 (立命館大)	1	17	1	17.0	
古川 真宙 (関西大)	2	14	2	7.0	
白根 混 (京都大)	1	13	0	13.0	
選手名	タックル数	サック数	インターチェプト	INT リターンyd	
高橋 一将 (京都大)	2	0	0	0	
佐野 剛 (法政大卒)	2	0	0	0	
奥本 魁 (日本大)	2	0	0	0	
金城 慎基 (法政大卒)	2	0	0	0	
寺中 健悟 (早稲田大)	2	0	0	0	
山崎 義悟 (日本大)	2	0	0	0	
木村 俊基 (立命館大)	1	0	0	0	
染谷 優生 (慶應義塾大)	1	0	0	0	
高橋 孝騎 (法政大)	1	0	0	0	
遠藤 颯 (神戸大)	0	0	1	24	



この日 10 得点を挙げ、日本代表 MVP に選ばれた #1K 大塚健一（京都大）



インターチェプトを挙げた #37DL 遠藤颯（神戸大）

#22RB 古川真宙（関西大）は 106y, 2TD の活躍



2TD の活躍 #81WR 西村有斗（日本大卒）

#80WR 猪熊星也はランとパスで 2TD



第2回 アメリカンフットボール大学世界選手権大会

日本代表選手 55 名 コーチ・スタッフ 21 名

OFFENSE

No.	Pos.	大学	氏名	身長	体重	現所属チーム
77	OL	日本大学	臼井 直樹	184	114	
78	OL	立命館大学	齋藤 瑠平	180	120	
79	OL	関西大学	佐嶋 優輔	191	130	
73	OL	早稲田大学	島崎 貴弘	183	120	
71	OL	中央大学	玉村 匠	180	114	
76	OL	早稲田大学	松原 寛志	180	113	
72	OL	立命館大学	村田 圭	179	114	
75	OL	関西大学(卒)	山下 公平	180	114	富士通フロンティアーズ
70	OL	立命館大学	山下 憧	184	106	
88	TE	関西大学	青根 智広	186	95	
89	TE	京都大学	佐々木 雄矢	183	100	
23	TE	早稲田大学	山崎 龍哉	169	92	
12	QB	関西大学(卒)	石内 卓也	180	85	パナソニックインパルス
10	QB	日本大学	高橋 遼平	168	73	
11	QB	立命館大学	西山 雄斗	178	82	
13	QB	早稲田大学(卒)	政本 悠紀	178	86	
80	WR	立命館大学	猪熊 星也	176	72	
84	WR	立命館大学	近江 克仁	180	81	
82	WR	法政大学	高津佐 隼矢	173	78	
86	WR	京都大学	白根 混	188	88	
85	WR	早稲田大学	鈴木 隆貴	179	80	
83	WR	関西大学	中村 聰吾	176	80	
87	WR	立命館大学	成田 光希	181	90	
81	WR	日本大学(卒)	西村 有斗	171	75	オービックシーガルズ
24	RB	日本大学(卒)	高口 和起	176	91	富士通フロンティアーズ
20	RB	立命館大学	西村 七斗	174	80	
22	RB	関西大学	古川 真宙	178	78	
29	RB	慶應義塾大学	李 卓	182	88	

COACH & STAFF

日本選手団 団長	伊角 富三	日本学生アメリカンフットボール協会
監督	鳥内 秀晃	関西学院大学
コーチ	板井 征人	関西大学
コーチ	長谷川 昌泳	日本大学
コーチ	西條 篤	大阪産業大学
コーチ	田中 芳行	日本大学
コーチ	池上 祐二	立命館大学
コーチ	庄子 達郎	中央大学
コーチ	時本 昌樹	近畿大学
コーチ	森 琢	日本大学

DEFENSE / SPECIALIST

No.	Pos.	大学	氏名	身長	体重	現所属チーム
99	DL	立命館大学	大野 莞爾	181	113	
91	DL	法政大学(卒)	金城 慎基	182	100	オービックシーガルズ
92	DL	中央大学	佐藤 将貴	184	106	
90	DL	法政大学	高橋 孝綺	180	117	
93	DL	立命館大学(卒)	仲里 広章	175	120	オービックシーガルズ
94	DL	立命館大学	松原 健太朗	182	103	
97	DL	日本大学	山崎 翼悟	178	123	
50	LB	立命館大学	浦野 雄大	171	86	
37	LB	神戸大学	遠藤 鳩	179	96	
53	LB	立命館大学	木村 仁哉	176	94	
54	LB	早稲田大学(卒)	コグラン ケビン	183	88	IBMビッグブルー
52	LB	慶應義塾大学	染矢 優生	173	86	
53	LB	京都大学(卒)	高橋 一将	175	85	
55	LB	立命館大学(卒)	長谷川 仁志	173	88	
32	OLB	日本大学(卒)	岩本 卓也	180	90	オービックシーガルズ
34	OLB	立命館大学	中川 葵一	178	79	
33	DB	立命館大学	秋山 雅洋	173	77	
35	DB	立命館大学(卒)	大貫 曜	180	90	富士通フロンティアーズ
21	DB	日本大学	奥本 魁	167	74	
30	DB	立命館大学	木村 俊基	167	73	
36	DB	ペイバー大学	神津 大地	180	82	
31	DB	法政大学(卒)	佐野 剛	177	78	IBMビッグブルー
25	DB	早稲田大学	寺中 健悟	168	75	
26	DB	関西大学	森岡 良介	175	78	
28	DB	日本大学	米田 亮太	174	80	
1	K/P	京都大学	大塚 健一	177	75	
2	SNP	近畿大学	中澤 鴻介	167	86	

Chef De Mission	荒井 次郎	AJC
General Manager	藤田 直孝	立命館大学
チームドクター	寺井 彰三郎	大阪市立大学
アスレティックトレーナー	吉永 孝徳	オービックシーガルズ
学生トレーナー	油谷 倭	関西学院大学
学生トレーナー	田尾 昌也	日本大学
学生トレーナー	玉木 宇	立命館大学
学生マネージャー	岩原 華	立命館大学
学生マネージャー	坂本 昂大	日本大学
学生マネージャー	濱部 莉彩子	早稲田大学
学生マネージャー	増山 晴美	関西大学

「第2回アメリカンフットボール大学世界選手権大会」大会概要

1. 大会名称:第2回アメリカンフットボール大学世界選手権大会
 2. 主催:国際大学スポーツ連盟 (FISU:Fédération internationale du sport universitaire)
 3. 派遣主体:日本大学スポーツ連盟 (JUSB:Japan University Sports Board)
 4. 大会日程:2016年6月1日(水)~6月11日(土)
派遣日程:2016年5月29日(日)~6月13日(月)(5月27日から国内で強化練習)
 5. 開催場所:メキシコ合衆国モンテレイ市
Tecnológico Stadium(モンテレイ工科大学内)
Av. Eugenio Garza Sada 2501 Sur Col. Tecnológico, Zip Code: 64849 Monterrey, Nuevo León, México
 6. 参加国(5カ国):米国、メキシコ、日本、中国、グアテマラ
 7. 選手参加資格:以下三つの条件を満たす者
① 日本国籍を有する、②大学生と大学院生、および卒業後1年以内、③28歳以下
 8. 対戦方式
参加5カ国の総当たりによるリーグ戦を行い、順位を決定する。
- 試合スケジュール
- | | |
|------------|---------------------|
| ◇ 6月2日(木) | Tecnológico Stadium |
| [14:00] | 日本×グアテマラ |
| | [18:00] メキシコ×中国 |
| ◇ 6月4日(土) | Club Águilas |
| [18:00] | アメリカ×中国 |
| ◇ 6月5日(日) | Tecnológico Stadium |
| [18:00] | メキシコ×グアテマラ |
| ◇ 6月6日(月) | Tecnológico Stadium |
| [18:00] | 日本×アメリカ |
| ◇ 6月7日(火) | Tecnológico Stadium |
| [14:00] | 中国×グアテマラ |
| ◇ 6月8日(水) | Tecnológico Stadium |
| [18:00] | 日本×メキシコ |
| ◇ 6月9日(木) | Tecnológico Stadium |
| [18:00] | アメリカ×グアテマラ |
| ◇ 6月10日(金) | Tecnológico Stadium |
| [18:00] | 日本×中国 |
| ◇ 6月11日(土) | Tecnológico Stadium |
| [18:00] | メキシコ×アメリカ |

■関連ウェブサイト

- | | |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| ◇大会公式サイト | http://www.monterrey2016.com/ |
| ◇日本代表公式サイト | http://japan.americanfootball.jp/ |



主管 公益社団法人 日本アメリカンフットボール協会

協力 日本学生アメリカンフットボール協会

遠征日程 【遠征】5月29日(日)～【帰国】6月13日(月)

出国便(アメリカン航空)

- (1) 5月29日(日) 成田空港→ダラス空港 (10:40→08:25) AA176 便
① ダラス空港→モンテレイ空港 (14:40→16:25) AA5874 便
② ダラス空港→モンテレイ空港 (16:51→18:40) AA5729 便

帰国便(アメリカン航空)

(2) 大阪組

- 6月12日(日) モンテレイ空港→ダラス空港 (07:16→08:53) AA5764 便
ダラス空港→成田空港 (10:55→6/13 14:00) AA175 便
※6月13日(月) ① 成田空港→伊丹空港 (16:55→18:15) AA8430 便
② 成田空港→伊丹空港 (18:25→19:45) AA8469 便
※AA175便の遅延により、国内移動便に間に合わず。結果としてJR東海道新幹線で移動

(3) 東京組

- 6月12日(日) モンテレイ空港→ダラス空港 (09:18→10:55) AA5799 便
ダラス空港→成田空港 (13:30→6/13 16:30) AA61 便

国内最終練習 5月27日(金)～28日(土) 合宿練習
於: 筑波大学

関連ウェブサイト

大会公式サイト(英語)

<http://www.monterrey2016.com/>

日本代表オフィシャルサイト

<http://japan.americanfootball.jp/>

日本代表公式 Facebook ページ

<https://www.facebook.com/AFJNT>

活動写真サイト

<https://www.flickr.com/photos/119552036@N06/sets>